

水本 朱星

6月13日、私が通う学校で「芸術ふれあい出前コンサート」がありました。私はピアノを習っていて、この日を楽しみにしていました。ピアノ、サクソ、ヴァイオリンによる演奏でした。音楽の先生から渡されたプログラムを見ても、何の曲かわかりませんでした。しかし、演奏が始まると、「あ、これはテレビで聞いたことのある曲だ」とすぐに気づきました。

ピアノを演奏した山本亜矢子さんは、天草出身の先輩でした。鍵盤の上を走るように指が動いていました。私はテンポが速くて、指をひろげて弾くときは、いつも難しいと感じています。でも、山本さんはリズムにのって、とても楽しそうに演奏されていたので、すごいなと思いました。

サクソの西口新一郎さんは、それぞれ大きさのちがう3本のサクソを吹いてくれました。一つ一つの音のはっきりしていたし、とにかく音に迫力がありました。そして、緒方愛子さんはヴァイオリンの特徴や役割を説明してくださいました。ヴァイオリンの音色を聞いたのも初めてでした。思っていたより、大きな音が出るのだな、と感じました。

8曲演奏してくださいましたが、最も印象に残ったのは、「命の奇跡」という曲です。熊本地震が起こり、3人が特別な想いを抱いて演奏している曲だと言われました。その曲は、本当に語りかけるようなメロディでした。生きていることについて考えさせられました。

それぞれ楽器の音は違うのに、3つ合わさると、本当に心地のよいハーモニーでした。とても貴重な時間を過ごすことができました。